

新潟県剣道連盟会報

年頭のご挨拶

一般財団法人 新潟県剣道連盟代表理事

齋藤 榮



新年あけましておめでとうございます。年頭に当たって、

康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨春新たな陣容の下で出帆した新剣連ですが、皆様のご高配とご協力を得て、諸事業は適正に処理され、今日まで恙無く組織運営がなされていることは喜ばしい限りであります。これまでいただいた皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

次に、昨年の新剣連並び諸団体の競技会では和歌山国体での少年女子（新潟商業）の5位入賞、中体連全国大会での燕中学校の準優勝と正に名実相伴の成績を上げております。さらに、昨春五月に日本で開催された第16回世界剣道選手権では日本が男女団体・個人のいずれでも優勝しましたが、その中

で本県出身の高橋萌子選手（燕中学校・現在法政大学4年）はメンバーの一人として大活躍、団体優勝に著しく貢献しました。猶、その後の全国大学女子選手権でも優勝、覇者となっております。

これらの輝かしい成績は選手自身の励みて止まざる心意気と学校での熱心な指導者の努力の合一の賜物であります。さらに言えば、幼い頃から日頃温かい眼差しと変わらぬ熱意をもってご指導に当たられた地域の剣道連盟並び剣道教室の指導者の献身的な努力の賜物でもあります。

ところで、剣道を取り巻く環境は年々厳しさを増し、剣道人口の減少は止まることを知りません。少子化とスポーツ種目の多様化、人々の好みの流動変化などを考えると然もありません。ましてゼロサム社会の静かで確実な広がりも気になるところです。従って我が国固有の優れて高貴な武道であ

りスポーツでもある剣道文化をどう守りどう維持するかは剣道愛好家にとつて共通した重い課題であります。またその認識からいろいろな施策が採られておりますが、今のところ特効薬は見当たりません。

そのような今日の閉塞的な社会状況にあって、老生がいつもたどり着く明るい感慨があります。それは道場で老若の剣士が少年少女と一緒に真剣に稽古する生き生きとした姿とそこに醸し出される厳しくも温かい空気に接する時のものです。

剣道は時に沈みかける太陽のように思うことがあっても、剣道愛好者の皆さんが凜固として道場に立ち、心から稽古を樂しみ励む立派な姿と正しく美しい姿勢を保つことこそ、剣道文化を守る最善策なりという確信になっております。文の徳が人々を化して文化たり得るように、剣道もその徳が人々を化する力をもつ間は優れた伝統文化、並びにスポーツとして世間に受容される続けるものと信じております。

結びに、今年も会員の皆様にとって交剣知愛の充実した年であるよう祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

定例理事会

平成27年9月5日(土)13時30分から新潟市黒崎市民会館会議室に於いて8月期定例理事会を開催いたしました。議案審議では、剣道有功賞、少年剣道教育奨励賞の推薦について全員一致で承認されました。

また専門委員会報告では、各専門委員長から報告がなされました。

- 一、開会宣言
- 二、会長あいさつ 会長 齋藤 榮
- 三、議案審議

以上

事業計画

〈1月〉 県内各地初稽古
10日(日) 全国高校選抜大会

〈2月〉 二次予選会（新潟）
11日(木) 祝 建国記念剣道大会（新潟）
15日(月) 居合道公認審判

認定審査会（新潟市）
28日(日) 昇段審査会（初段〜四段）（新津）

〈3月〉 全日本都道府県対抗剣道
6日(日) 優勝大会新潟県予選会（長岡）
六・七・八段講習会（新潟）

20日(日) 定例理事会（新潟）

26日(土) 県合同稽古会（新潟）

27日(日) 飛燕旗争奪剣道大会（燕）



剣道における打突の道

新潟大学学友会剣道部名誉顧問
剣道教士・七段 平野孝 國

待ちぼうけ 待ちぼうけ
ある日せっせと野良稼ぎ
そこに兎が飛んで出て
ころりころげた 木の根っこ

北原白秋 作詞
山田耕作 作曲

これは大正13 (1924) 年、満州 (中国東北部) 在住の日本人に対し、土地に因んだ、格調高い音楽教材を提供されたしとの、満州教育会からの需めに応じ、作られた唱歌である。後、内地にも紹介されて人々の愛唱するところとなった。(フリー百科辞典『wikipedia』)

私なども何時しか聞き覚え、このお百姓さん、結局とり逃したのだろう、という理解になっていたから、剣道「打突の機」の譬えにはなろうと考えた。

しかし正しい歌詞を調べると、話は逆、兎は木の根に当たり、死ぬ想定であった。拾って帰り、味を占めた農夫は鎌を捨て、ひたすら兎の飛び出しを待つ生活になったから、作物は実らず、兎も来ずで、国中の物笑いになるという、中国戦国時代、韓の公子韓非 (一BC233頃) の思想書『韓非子』にある「守株待兎」の説話である。

昨年の北信越学生剣道大会 (信州大学主管) は膝や腰の痛みで暫くご無沙汰しての同行となる。大会当日、出掛けのバスで、前日稽古の感想を述べた。「好いか、一緒になって打ち合ひしてはだめだぞ!」

これを3返、大声で言わせて会場に向かった。その結果が、何と、男女とも優勝の栄冠である。勿論、これは日頃の稽古の賜物で、この一言で優勝できたとは、誰も思わない。

この剣道部員は、日頃、基本打ちから掛かり稽古、素振り稽古に至るまで、相間に積んでいる。そこへ、大会の当朝、氣勢がうんと揚がっているところへ、チャンバラするなどの諷刺めであった。やや気落ちしたところへ、今度は「目を見て打て」という新しい指示が出た。迷わせたかも知れぬが、これが良かったのではなからうか。相手を冷静に見るゆとりができたのである。結果は「吉」と出たが、細かい訳は、大学に帰り、事分けて話すこととした。

第一にチャンバラ剣道は、せっかくの稽古を台無しにしてしまう。相手と同格にする、マイナス効果しかないのである。

互いに速さと隠し技を競えば、勝負どころは速さとなる。しかし、速さには絶対はない。去年の優者が今年の優者となる例は稀なのである。皆研究し尽くして来るので、だまし技は効かない。条理を尽くした試合が物を言う

依の鼠が一匹でチュウ。
二匹でチュウ。
三匹でチュウ。
一匹お逃げ! 二匹お逃げ! …

これは子供の縄跳び歌であるが、跳べる道理がちゃんと唄われている。いきなり縄が飛んで来ては、誰もが引掛かる。小さな子にも分かりやすい歌であるから、跳べて面白いのである。

剣道の面打ちも、原理は同様。いきなり打たれては、誰も除け様がない。ところが、こちらで誘い出したものであれば、たとえ剣の速度は遅くとも、正確に打ち込める道理がある。相手のペースに乗らず、「眼を見て打て」の教えは、その旨であった。正確には左目であるが――

「相手をよく見て打て」とは、何処の剣道教室でも聞く教えである。しかしこの教えに従っていては、なかなか成

功し難い。大方「待ち剣道」になっているからである。兎が飛んで出るを待つ愚、何かに当たって自滅するのも大愚である。獲物は出て来もしない。剣尖は、立ち上がったって合わせたら、左目に付けなければならぬ。剣尖が高いといわれるであろうが、実は、相手に剣尖しか見せない黄金角なのである。盲点である。

この視線のまま、一足一刀の、「交刃の間」合いまで、剣尖を時計と逆方向に回し、相手の剣を喉元まで抑えながら、体でにじり寄るのである。小手先だけ出すのではない。このにじり寄りの瞬間、相手の決意が察する。見たら、もういささかの躊躇なく、手足と腰一体の剣を出し、そのまま打ち切れれば良いのである。

確かに勇気の要る技であるが、どうしてもこれをやらなければ、獲物を仕留めることはできない。剣尖を体ごと喉元まで降ろす時、相手がぼんやりしていればそのまま鋭い面。「あわてて面に出よう」とするなら、手を伸ばして面。「払おう」としても直ぐに面が打てる。「面に来てしまった」ら? 相手の両腕の挙がったところを、しっかりと胴に抜ければよい。

決して除けてはならない。除けようとすれば、相手の面打ちに負けるか、同士打ちになるのである。場合によっては、喉元まで剣尖を絞り込む時、ぐっと眼中を見詰め、相手の決意を見定める瞬間があっても良い。相手は、

必ず何らかの行動に出る。こちらの思
う壺である。

これは相手を引き出す究極の理法で
あるが、これだけの手順を、成功させ
るか否かは一にかかって、剣士の練
技・胆気の修行次第である。しかし面
打ちの要諦は、縄跳び歌に習えば、そ
れほどの難事業ではない。

剣道大会前の一言が功を奏したとし
ても、その反省がなく、分析的応用動
作への再構成がないなら、あれはあの
場限り、魔法にかかったまぐれ優勝と
いうことになるのである。

ジッと相手の目を見、相手の意図を
見抜く稽古は、剣道必勝の道でありな
がら、人生万般に亘る修行の道程でも
あった。

察れば勝ち 見られて負けの剣の道
荒磯の月影に見つ 達人の剣

万象に神意を感じ、美しさ、尊さ、
有難さを感じ、他人に教え、造形化
する業務も、この道の出であった。日
本の「神」は、人が見た瞬間に実在し
名を得て時空条件を得た。

世の中には、天変地異、社会のあら
ゆる事変に対し、邪悪な意思のみ論う
宗教がある。日本人が古来佳しとする
道ではない。

何事にも「お陰様」と感謝出来る心
が、剣道の「察る目」となる。神道で
ある。

相手の目を見つつ、鰐元まで絞り込
む攻めも同じ剣理である。

〔新潟大学名誉教授・文学博士（東京
大学）〕

平野先生は永年、新潟県剣道連盟
の審査員選考委員を務められるなど
新剣連の発展に寄与してこられまし
た。27年五月の役員改選をもって退
任されました。

本記事は、新潟大学剣道部「剣道
部報（23〜24号）」に掲載されたもの
を、先生からの許諾をいただき転載
いたしました。転載に際しましては、
充分注意致しましたが、誤写等がご
ざいましたら何卒御寛恕下さい。
（編集部）

「第53回中堅剣士講習会」 に参加して

小須戸剣道連盟 風間 裕輔



今回の53回講習会は、
平成27年6月17日から
21日までの4泊5日
奈良中央武道場にて行

われました。各都道府県より八段一名、
七段六十名、六段一名の計六十二名の
参加で、警察官、教員、刑務官、会社
員など様々な職種の剣士たちが5日間、
剣道漬けの日々を過ごしました。

初日の開講式において、錚々たる
指導講師を前に緊張感が高まる中で、

「この講習会は、講習ではなく、君た
ちを強化することです！」と話があり、
当然不安もありましたが、それ以上に
気合が入り、むしろ決心する言葉とな
りました。

素振り指導では、構え方、姿勢、振
りかぶり、打突、そして刃えなど一つ
一つの動作の細かい部分まで徹底的に
指導があり、一本一本無駄の無い素振
りを意識しました。全日程を通して
5千本から6千本位は行ったと思いま
すが、回数をこなす毎に出来ていな
かった動作が自然に出来る様になり身
体に染み着いていく感覚がありました。
指導法では、切り返し、打ち込み、追
い込み、掛かり稽古、区分稽古など
様々な稽古が行われました。

常に基本に忠実であることを絶対条
件として、技を出す為の心構えや機会、
技の選択、表と裏の竹刀操作方法。ま
た、一拍子、一挙動の打突といった体
中剣の習得稽古として足運び、体重移
動、体の運用方法など理合いを混じえ
た指導を頂きました。

審判法では、審判の目的と任務、実
践による実技指導が行われ、表示方法
や位置取り、三人の連携と疎通の大切
さなどを学びました。

日本剣道形、剣道基本技稽古法で
は、技を出す為の理合いや機会、呼吸
法、緩急強弱の使い方など反復して行
い、防具を装備しての実践練習と形稽
古の関係性、重要性を再認識させられ
ました。

この講習会を通して、私自身、剣道

に対する向き合い方、考え方が変わっ
た様に思います。今改めて指導受けた
事を振り返ると全てが基本に繋がって
おり、基本の大切さや基本の難しさを
心の芯まで体感することができたと思
っております。

最後になりますが、今回指導頂いた
事を道場や剣友に伝授してゆくことが
私の役割であるとも考えます。5日間、
真剣になって剣道に向き合わせて頂い
た会社や、推薦して頂いた新潟県剣道
連盟の関係各位に感謝申し上げます。本講
習会の報告とさせていただきます。あ
りがとうございました。

地域通信

夏季講習60周年を迎えて

阿賀野市剣道連盟

名誉会長 望月 正夫



剣道夏季講習60周年、
節目の年を迎えました。
この講習会は地元の生
徒だけを対象にした初
年度、次年度は第何回と命名せず、3
年目の講習会を第一回と致しました。
この機会に講習会の歴史を振り返って
みたいと思います。

元々、水原郷は剣道の盛んな地域で
した。天朝山に武徳殿があり、地域の
学生、一般愛好家、警察官等稽古に励
んでいましたが、戦後、一時剣道ので
きない時期がありました。昭和21年武
徳会が解散しています。しばらく武道
の空白の時期があった訳ですが、昭和

25年にしない競技がはじまり、竹刀競技連盟が発足しています。早速私は堀越郵便局加藤正治氏、役場助役丸山久雄氏等と相はかり、堀越村柔剣道振興会を立ち上げ剣道を始めました。その頃、笹岡の木村義謙氏（現会長の御尊父）から、「私も地元の小中学生に剣道を教えている。堀越でも始めたそうだが、一緒にやろう」とご連絡をいただき合同稽古が開始されました。高校生も加わり、その頃他市町村にも動きがあったようです。

学校でも部活で剣道部ができました。指導者は、京ヶ瀬は柄澤嘉則、水原は原安衛、安田は富田勝先生、堀越は望月でした。この年南部郷剣道連盟発足、初代会長に白瀧酒造社長白井敏夫氏、二代目望月正夫、三代目柄澤伸一氏、四代目木村謙龍氏。27年に全日本剣道連盟発足。28年には第一回全日本剣道選手権が開催されています。

笹岡での講習会には地元は勿論、県外からも参加者があり、その数、年毎に増え三百名を超えました。講師も県外からも招聘。著名な講師は国士舘大学大野操一郎九段範士、東京教育大学中野八十二九段範士、助手として両大学の剣道部員をお迎えしました。新発田の佐藤毅九段範士からは何十年も中心的にご指導頂きました。講師陣は長野県上田市など県外からお出で頂きました。宿舎は出湯温泉石水亭、一般講師は常安寺（現会長宅）の本堂、受講生と引率者、一般成人、地元役員は笹神中学校の教室でした。地元役員は食事の手

配から雑務全般大変な苦労でした。一番心配したことは事故の無い事でしたが、青少年の健全育成に果たしたこの合宿講習会の役割は多大なものがあったと自負しております。諸般の事情から合宿は無理となり、今は水原体育館を会場に4日間の日程で開催しています。最後に、県連会長齋藤榮先生始め佐藤伸先生、渡辺幹雄先生、関係の先生方より一層のご支援をお願いします。次第であります。

**大会
結果報告**

その他の大会は
新剣連ホームページを
ご覧下さい

第四十四回新潟県高段者大会

8月30日(日)
妙高市総合体育館 はね馬アリーナ
主管 妙高剣道連盟

平成27年8月30日(日)妙高市総合体育館はね馬アリーナに於いて「第44回新潟県高段者大会」が行われました。県内六、七段82名が東軍と西軍に分れての大会。今回は妙高剣道連盟が主管となり、午前に行われた「第63回全日本剣道選手権大会新潟予選会」と共に盛況

〈高齡剣稽古会場の変更〉

毎月第4土曜日、三条市文化会館で開催しております、高齡剣稽古会の会場を同会館の取壊しに伴い、本年1月から燕市体育センター武道場に変更します。

皆様のご参加をお待ちしております。

のうちに終わりました。

東軍12西軍20で西軍の勝利となりました。

拝見試合として、山田義雄八段と白井吉満八段が対戦されました。場内が静まる中、格調高い妙技を拝見させて頂きました。

その後合同稽古も行われ閉幕となりました。



六段の部	
東軍	西軍
先鋒 水野(阿賀野)	一本 作本(糸魚川)
次鋒 酒井(栃尾)	一本 宮田(上越)
3将 中島(警察)	メモー 長谷川(上越)
4将 町田(新潟)	ドーメモー 小林(三島)
5将 皆川(十日町)	一本 菊崎(糸魚川)
6将 関(小千谷)	ドドメ内藤(上越)
7将 八木寿(上越)	ドドコ伊藤(糸魚川)
8将 岡崎(横越)	一本 八木裕(上越)
9将 帆苧(五泉)	一本 川上(阿賀野)
10将 田沢(白根)	コー 今井(上越)
11将 外山(新潟)	コーメモー 八木和(糸魚川)
12将 大岩(長岡)	一本メモー 山岸(小千谷)
13将 立川(燕)	一本 東條(妙高)
七段の部	
先鋒 大桃(魚沼)	メモー 上谷貴(長岡)
次鋒 宮田(上越)	一本 三河(三島)
3将 池田(上越)	一本メモー 渡辺直(長岡)
4将 藤塚(新潟)	一本 高嶋(上越)
5将 天井(五泉)	ドド 清水隆(糸魚川)
6将 小浦方(栃尾)	一本 柳(十日町)
7将 丸山(上越)	メモー 野本(糸魚川)
8将 渋谷(新潟)	メモー 佐藤秀(小千谷)
9将 小泉(警察)	一本 平井(妙高)
10将 樋口(十日町)	コー 柳澤(長岡)
11将 山口(新潟)	ドド 佐藤定(長岡)
12将 五十嵐(新潟)	一本メモー 澤見(佐渡)
13将 八木(新潟)	一本 松田(長岡)
14将 小柳(新潟)	ドドコ 澤見(佐渡)
15将 佐藤治(西蒲)	メモー 田中純(三島)
16将 鈴木(新潟)	ドドド 関原(糸魚川)
17将 廣川(新潟)	メモー 岡田(柏崎)
18将 小林(豊栄)	メモーメモー 渡辺希(柏崎)
19将 和田映(小千谷)	一本 宮下(糸魚川)



- 20将 吉田仁(新潟) メー 柴田(長岡)
- 21将 和田正(三島) ー 藤田豊(小千谷)
- 22将 若林(五泉) ー 吉田賢(燕)
- 23将 小杉(新潟) ー 大橋(長岡)
- 24将 木村(警察) コメー 西村(燕)
- 25将 佐藤仁(新潟) メー 細貝(小千谷)
- 26将 小川(上越) ー 大竹(長岡)
- 27将 藤井(五泉) ーメド 清水龍(長岡)
- 28将 品田(柏崎) ー 上谷洋(長岡)
- 29将 田中茂(警察) ーコ 高橋(上越)
- 30将 久我(警察) ーコ 直原(上越)
- 31将 齊藤博(新潟) ー 田川(十日町)
- 32将 大浜(上越) ーココ 渡辺久(長岡)
- 33将 長谷川(新潟) ーメ 山田(新潟)
- 34将 二平(警察) ー 加藤(学校)
- 35将 佐藤好(警察) ー 伊藤(糸魚川)
- 36将 江村(豊栄) ー 堀(新潟)
- 37将 久保田(上越) コー 齊藤朝(警察)
- 38将 遠山(警察) ー 青山(上越)

- 39将 鈴木(阿賀野) ー 草間(三条)
 - 40将 皆川(新潟) ーコ 西潟(魚沼)
 - 41将 藤田惣(亀田) ー 星名(十日町)
- 勝数 12 ー 20
- 受賞者は左記の選手です。(順不同)
- 〈優秀試合者賞〉
丸山美恵子(上越)・野本由起子(糸魚川)
- 〈優秀選手賞〉
内藤成美(上越)・山岸明夫(小千谷)
伊藤 修(糸魚川)・佐藤治彦(西蒲)
佐藤 仁(新潟)・渡辺直司(長岡)
清水 龍(長岡)・澤見幸夫(佐渡)
木村嘉靖(警察)・渡辺久雄(長岡)

第10回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

9月20日(日) 大阪市舞州アリーナ
▽小学生の部

- 監督 内野 葉子
- コーチ 三本 雄樹
- 選手
- 先鋒 中嶋 隆矢(吉川剣道教室)
- 次鋒 近藤 創太(燕剣道練成会)
- 中堅 長谷川功成(共栄館道場)
- 副将 安部 伸亮(愛泉道場)
- 大将 長谷川大雅(頸城大湊剣道教室)

予選リーグ
新潟 0(0) ー 3(4) 大阪
新潟 2(3) ー 3(6) 佐賀
結果 予選リーグ敗退(二敗)

【監督観戦記】
今年で四回目の出場となる新潟県チームは、厳しい選考を経て選ばれた

男子五名の編成となりました。予選リーグ突破と上位進出を目指し高い意識を持ち、自ら厳しい練習を積み重ねた選手たちは、大会前の強化試合でも強豪他県チームと互角以上に戦い、実力、チームワークとも頼もしい存在となりました。しかし、予選リーグの組み合わせは、昨年優勝の地元大阪と強豪の佐賀、そして新潟の三県という厳しいものとなりました。

初戦の大阪戦では、先鋒の中嶋は果敢な攻めで惜しい技もありましたが引き分け。次鋒近藤も積極的に技を出しましたが惜敗。中堅長谷川は、互角以上に攻めるも一瞬の隙をつかれ一本負け。後がなくなった副将安部も最終技を繰り出すも相手に守られ引き分け。大将が積極的に攻めるも一本負け。三敗二引き分けで敗退しました。

続いて大阪と引き分けて対新潟戦の勝ち点で上回りたい佐賀との対戦です。



選手たちは、必死の相手に負けない気迫で試合に臨みました。

先鋒中嶋は、立ち上がりすぐに見事な出ばな面を決めるも、相手の反則気味の激しい当たりに惜しくも敗退。次鋒の近藤は先鋒の無念を晴らそうと強気の攻めから次々に技を出し、後半見事な面を決め一本勝ち。中堅長谷川が積極的に技を繰り出すも試合巧者の相手に敗退。副将安部は惜しい技を何度か繰り出すものの惜敗。大将戦は気迫で上回る長谷川が果敢に攻め最後に面を決め勝利。新潟は二勝三敗で敗退。取得本数で上回った佐賀が予選リーグ突破となりました。

しかしながら新潟は敗退したものの強豪二県の選手に引けを取らない僅差の試合内容であり、新潟県選手のレベルの高さを大きく印象付けた大会であったと思います。

今回の選手はもちろん、選ばれなかった少年少女剣士の中にも素晴らしい可能性をもつ選手が大勢いますので今後の活躍が大いに期待されるところです。

各地区の予選会から始まる選考会、そして強化練習、本大会とこの大会に向けての取り組みは新潟県の少年剣道の発展に繋がるものと確信しています。また、お世話になりました新剣連を始めとする剣道関係者、保護者の皆様から感謝申し上げます。(内野)

- ▽中学生の部
- 監督 田中 泰(内野中)
- コーチ 小澤 享(黒埼中)

先鋒 相場 葵(燕 中)
 次鋒 丸山 萌々(燕 中)
 中堅 須田 友紀(白根一中)
 副将 皆川 直樹(松浜中)
 大将 樋浦 雄也(小池中)

※先鋒・次鋒は女子、中堅・副将・大将は男子で、女子は県大会の個人選手1位2位、男子は同1位3位の選手で編成。

予選リーグ
 新潟 0(0)―0(0) 滋賀
 新潟 1(1)―2(2) 福岡

※一敗一引き分けで決勝トーナメント進出ならず。

【監督観戦記】
 節目となる第十回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会が、大阪舞州アリーナにおいて開催されました。3チームの予選リーグで、本県中学生チームは滋賀と福岡と組むことになりました。

予選リーグ初戦の滋賀戦では、先鋒から互いに様子見の状態で、慎重な戦いぶりが続きました。その中でも相場選手が繰り出した面擦りあげ面は完成度の高い玄妙な技に見えましたが、一本にならずそのまま引き分けに終わりました。また中堅須田選手も互いの鏝ぜり合いの反則後、「始め」の宣告の瞬間、相手の手元が上がったところをすばやく出端小手をとらえましたがこれも一本にならず、その他の選手も有効打突を奪うことなく全員が引き分けました。

続いて予選リーグ2戦目で対戦した

福岡は、先に行われた全国中学校剣道大会女子個人戦優勝と2位を占めた二人を先鋒・次鋒に据え、優勝を狙っているチームでした。

先鋒戦の立ち上がりは激しい打ち合いかから始まりました。手の内を知り尽くしている両者でありましたが、相場選手は鏝ぜり合いから相手が技を打ち出そうとする絶妙な機会をとらえ、引き面を打ちきること2回ありましたが、しかし、審判の旗が挙がることなく引き分けに終わりました。

次鋒丸山選手も巧みな体さばきと攻めで、全国個人チャンピオン相手に絞らせず対応しましたが、相手の懐に入り小手を打った瞬間合わせられ合い小手面で一本負けを喫してしまいました。

中堅戦では相手選手の連続2回追い込み面が不十分な打ち切り方であったにもかかわらず、一本になってしまいました。その後すかさず相手の起こりをとらえた須田選手の面は、不運にも有効打突と認めてもらえず、時間切れ一本負けになってしまいました。

副将皆川選手は、何とか勝者数を取り返そうと必死で食らいつきましました。2分が経過した頃、十分な打ち切りを見せた引き面も一本にならず引き分けてしまいました。

団体戦の勝敗が決した後の大将戦、そのまま勢いに乗ろうと攻めに入ってきた相手大将の動きを落ち着いて見切った樋浦選手が、初太刀の相小手面をきれいに決めました。その後も終始

攻めを見せませんが、3分が経過してしまいました。

結局、その後滋賀にも勝利した福岡がそのまま勝ち上がり、7年ぶり3度目の優勝を果たしました。

それにしても、我が新潟チームの予選リーグ2試合を統括すれば、選手一人一人が自分の持ち味を十分発揮し立派な戦いぶりを見せてくれました。選手達の今までのひたむきな取り組みや各種大会での試合態度・堂々たる姿を見てきたことから、そのことは断言できます。おそらく、選手達は高校へ進学しても剣道を続けるものと思われませんが、今回の経験を生かした5人のさらなる活躍を期待しております。

最後に、県剣道連盟の先生方、ご支援ご協力をいただきました皆様方には感謝申し上げます。ありがとうございます。(田中)

新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては、更なる高みを目指して稽古に励み、一方では、子供達に剣道を通し、人間性の向上、修練を根気強く指導する。そんな心構えに心より敬意を表するところであります。

猛暑、寒中と休まず道場へ通って子供供達に刺激を受けて、剣道より『健道』を楽しんでいる当方ですが、本章作成にあたり、先人から教わったある文章を思い出しました。

「植えてみよ、花の育たぬ、里はなし、吉野の桜も植木なりけり」
 (昭和十五年錬士称号の筆記試験問題だそうです)

弛まぬ努力を重ね、決しておごらず、剣道の修行は単に心身を鍛えるだけでなく、互いに人格を尊重し、力を出し切り、相手に対して感謝の念と敬う心の本質を学ぶことが重要である。最初から名人、達人はいないのだ。

解る気が致しますが、当方はもう手遅れ状態です。しかし、これまでに教わった剣道という「道」の中で何か役に立ちたい。そんな風に思っております。(C級 公認審判員)

原稿募集

広報委員会では、地域通信・短信のコーナーの原稿を募集しています。支部同士での合宿交流や稽古会、練習試合、地域に根ざした伝統の大会など、活動状況などをお送り下さい。

訂正

会報97号に誤りがありました。2頁4段目

誤 理事 長谷川達郎(中之島)
 正 理事 長谷川道郎(中之島)

以上お詫びして訂正いたします。

編集後記

新潟県剣道連盟のQRコードです。ご利用ください。

